

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174600443		
法人名	有限会社 アートコーポレーション		
事業所名	さくらホーム		
所在地	埼玉県深谷市上野台104-1		
自己評価作成日	平成25年1月30日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=1174600443-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	平成25年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている通り、利用者様お一人おひとりへの支援は、環境である職員の「思いやりの心が原点」との思いで職員を採用し、職員のチームワークを構築し、明るい職場となっている。また、利用者様とも和気あいあいのなじみの関係を築いている。そのため、利用者様もご自分の要望や思いも自由に表現し、職員もその要望や思いに応えるべく取り組んでおり、利用者様・職員ともに『家族』として明るく楽しい生活を送っています。また、ご家族の要望による急な宿泊・通い・時間延長にも柔軟に対応しており、ご家族様にも安心して利用していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

深谷駅近くの静かな住宅街の一角に建つさくらホームは、開設10年目を迎えた二階建て2ユニットのホームである。地域に溶け込んだ運営ができるよう、ホーム発行の「さくらだより特別号」を関係各所に配布している。認知症の理解や対応、喚起を促す内容を織り込み、さくらホームをよく理解して頂けるよう努めている。管理者と職員のコミュニケーションがうまく行っており、離職率が低く穏やかな介護が行われている。職員や入居者に笑顔があり、家族的な雰囲気にも包まれたきめ細かな支援を行っており、入居者の顔色や表情も良い。職員はその場に合った臨機応変な対応を心がけている。入居期間も長期の方が多く、個々に合った食事形態が提供され、三度の食事や行事食を楽しみながら日常生活が送れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関、事務所、居間等に掲示職員がいつも確認できるようにしている。また、運営・業務に際し、理念に基づいた実施に取り組んでいる。	朝夕の申し送り時に事例をあげ、理念に添っているか確認して理解を深めている。又、「入居者にとってはどうなのか」と検討してサービス提供に努め共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩時などでの挨拶や、近隣の方と気軽に言葉を掛け合っている。また、地域の方が野菜など持ってきて下さったり、日常的に交流している。	気候や天気の良い時は散歩に出かけ、畑仕事をしている方から野菜を頂いたりしている。夏祭り等、地域の催事にも積極的に参加している。近所の親子がホームのマスコットとなっている猫やうさぎを見に来たりしている。週1回、ゴミゼロ運動で入居者と一緒にゴミ拾いをする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者を抱えたご家族の方の相談にのり、介護保険・介護施設の利用の方法等説明させていただいている。また、「認知症に関するパンフレット」を作成し、地域に回覧させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施している。会議では、ホームの活動状況の報告やホームの取り組みの説明や課題について意見・要望を聴かせていただく場もしている。	運営推進会議メンバーは多方面であるが、事業所からの報告事が多くなっている。認知症理解に向けての啓蒙活動を提案され、パンフレットを作成し、内容、文字の大きさ、色使い等を相談し、配布方法も意見を聞きながら完成させ、ポスティングを行っている。	今期は予定していた年6回が5回となっており、開催日時等を考慮しメンバーが参加しやすいよう工夫をして年6回の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に管理者が市役所及び広域保険者に行き、ホーム担当者と情報交換を行ない協働関係を築いている。	介護保険の更新時や生活保護利用者の様子等の状況報告で毎月担当者を訪問している。オムツの費用請求や空き部屋情報、困難事例等のアドバイスを聞きながら対応しているため協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、内部研修を実施し職員に徹底している。夜間以外はすべてオープンになっており、自由に出入りできるようになっている。	身体拘束に関する外部研修を受けた資料を基に法人合同の勉強会を月1回実施し、共有認識を図っている。玄関の施錠は夜間のみで自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部新任研修には必ず学び、内部研修も行っている。また虐待防止マニュアルを作っており、職員会議時や日常的に虐待防止の意識の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターとの話し合いや、市のケアマネ協議会や外部研修に参加し、勉強する機会を持っている。また内部新任研修には必ず学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、不安・疑問に対して十分な説明を行い、納得していただけるよう心がけている。退所時でもできる限り支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは、日常的に不満や苦情を言える関係になっている。また家族会や送迎時に意見を伺っており、ご家族へのアンケートも実施し運営に活かしている。	年1回家族会を行い、意見や要望を聴く機会を作っている。また、毎月の利用料の支払い時には個々に面会をし、家族の思いや意向を聞く機会を持つように努めているが、要望等はほとんど無く、感謝の言葉をいただくことが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や年3回の個人面談を実施して聞く機会をもっている。また適時アンケートを実施し、意見や提案を出してもらい、運営に反映させている。	全職員が月間行事担当者になり、行事計画の立案やレクリエーションの内容検討、来年度の研修希望等を検討している。年に数回個人面談を行っている。また、アンケートで要望や意見を募る機会を作って反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の個人面談や、個々の課題を明確にするチャレンジシートを活用、年2回の人事考査を実施し、個々の努力や成長した点や課題等明確にし、結果は一部賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に本人の希望も含め年間計画を立てて受講しており、受講内容は毎月の伝達講習会で発表の場を設けスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネ協議会やGH協議会などの研修や交流会に参加し、情報交換・サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時より具体的に説明するとともに、アセスメントを重視し、ご本人の思いを受け止めている。また日常的に意見・要望を聞く機会を持ち、希望に沿った支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時より、ご家族の要望を聞き、ご家族に安心していただけるよう努めている。また面会時・送迎時等にも適時要望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のニーズに合ったサービスの提供に努め、適時見直しを行いご家族と相談・提案をしサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側・する側という立場ではなく、対等であることを徹底し、出来ることはやっていただき、職員が教えていただいたり等、共に支えあう仲間としての関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時・送迎時等、ご家族と共通認識を持ち、共にご本人を支えていくという考えを説明し、ご本人の生活について共に考え、話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の高齢化により難しくなっているが、時に知人・友人の訪問もあり、一緒に談笑したりされており、馴染みの関係が途切れないよう配慮している。	職員と一緒に化粧品や洋服を買いに行ったりしている。入居前より利用していた美容院が訪問美容で来ていただくケースもある。これまでの繋がりが継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は良好で、互いに支えあい、時に職員が潤滑油となり、良い関係が築ける環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所の行事に来ていただいたり、入院時にも訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に揚げている通り、利用者本位のケアと、その方の思いを実現できるサービスの提供に努めている。意思表示の困難な方には、職員間で話し合い、ご本人の立場に立ったサービスの提供に努めている。	意志表示の出来ない方は家族から生活歴を聞いたり、職員間で話し合ったり、日々の行動から察して支援をしている。毎日の生活の中で自己決定が出来るような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや生活歴をお聞きするとともに、その後もご本人・ご家族から情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1度のカンファレンスを中心に、日常の中で連絡簿や介護日誌を通し、心身の状況の把握に努め、情報交換を行い、統一したサービスの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを通し、介護計画の見直し、モニタリングを行うとともに必要に応じご家族と連絡を取り合って見直しを行っている。	月1回の職員会議でカンファレンスを行い、介護計画を見直し、モニタリングをした上で安定期の方は6ヵ月毎、変化のある方は即時見直しをしている。朝、夕の送り時に情報を共有し、支援している。家族には面会時に確認していただき了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌、連絡簿での申し送り事項を記入し、情報を共有している。また、状況の変化に対しては、カンファレンスを通し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な宿泊や時間延長サービスなど、ご本人やご家族の要望に応じてできる限りの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の利用者の状態や受け入れ環境に応じた対応をしている。また、ボランティアの受け入れや近隣施設への訪問等協力を仰いでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の高齢化に伴い、宿泊されている方を中心に訪問診療に契約され、365日・24時間の医療支援体制をとっている。また体調の変化に応じて主治医と連携を取り早期対応に努めている。	毎月2回、契約医の往診があり、体調変化時には都度往診いただいている。週3回、訪問看護師による健康チェックをしていただき、主治医に繋げている。歯科はホームにて予約し、通院の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化もすぐに看護職員に報告し対応している。また、介護職員や看護職員から主治医へも適時報告できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医が入院設備のある病院の系列のため、訪問診療時等に、ご本人の状態に関する相談や、入院に関する情報・経過等常に相談・連携できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を主治医とも検討し作成。ホームでできることを明確にし、職員に周知徹底し、指針を共有している。また、家族会等で、指針の説明をし、理解していただいている。	契約時に看取りの指針の説明をしており、終末期が近くなった場合、看取りの希望を伺い、ホームでできることを明確に伝え、要望があった場合は主治医の指示のもと、主治医、家族、ホームで話し合いの場を持ち取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルの徹底、職員の気づきの重要性を周知している。また、外部の救急救命講習で応急手当の方法等学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー・自動通報器を設置するとともに、年6回の避難訓練を実施し、職員・利用者ともに避難の方法等、習慣化し、身につけている。また、夜間を想定しての避難訓練も実施している。	年1回、消防署立ち合いのもと、避難訓練と通報訓練を行い、1回は夜間想定自主訓練を行っている。避難訓練では建物に設置された非常階段や滑り台を実際に使い、全員が避難終了までの時間を計り、習慣化している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念やマニュアルの徹底、内部研修や職員会議等を通し、人権の尊重やプライバシーを守ることを徹底している。	家族的な親しみのある言葉かけをしている。全職員はプライバシー確保についての外部研修、内部研修を行っており、具体的に確認し合い理解した上で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が気軽に希望や要望を自由に表現出来る環境を整えており、できる限りご本人に納得していただけるよう説明し、自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の徹底や内部研修・職員会議等を通し、ご本人のペースを守り、希望を優先するよう徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの訪問理容を利用し、会話を楽しみながらご本人の希望の髪型にってもらったり、洋服なども職員と一緒に買い物に行ったり、ご家族の協力を仰ぎ買って来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し、利用者の好むメニューにしたり、準備から片付けまで、手伝っていただける方には積極的に参加していただくなどご自分の役割として定着している。	給食担当職員が利用者の好む献立を作成し、食材は地域の小売店に発注し利用者と共に取りに行っている。野菜は近所で頂いたものを使用することもある。行事食を作ったり、希望を募って出前や週2回程度の晩酌を楽しんでいる方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算に基づく献立を始め、食事摂取状況、水分摂取量等も記録し、1日を通しお一人おひとりの状況を確認し、排泄状況も含め、個々の状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施し、お一人おひとりの口腔内チェックと確認、支援を実施させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分摂取量も含め、排泄パターンを把握し、定時排泄支援やトイレでの排泄支援を行っている。	個々の水分摂取量をチェックし記録した上で排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間でもトイレ対応の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の排泄リズムや水分摂取量を常時チェックし、飲み物等も個別に工夫するとともに、主治医とも相談し、運動も含めた便秘予防・解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに希望の時間での入浴とさせていただいているが、入浴日以外でも希望により入浴していただいている。夏場のシャワー浴もご本人の希望や状況に応じて行っている。	週3回の入浴日を決めており、数種類の入浴剤を用意し、気分で好みの物を楽しんでいただいている。職員との会話も多く、コミュニケーションをはかる機会となっている。また、柚子湯、菖蒲湯等の季節の湯も楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動等を大切に、生活のリズムを整え安眠していただけるよう支援している。また午睡も希望やご本人の状況により行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作り、全職員が薬の状況を理解し、服薬方法を統一し、状況の変化にも早期に発見、確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の習慣や生活歴の中から喜び・楽しみとなる役割をやっていたり、ご本人なりの楽しみとなることを見つけ、張りのある生活の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩を中心に、希望によりドライブ・公園への散歩等気晴らしも含めた支援を行っている。また、近隣のお店に買い物に行ったり、洋服等も職員と一緒に出かけている。ご家族にも協力をお願いし、外出等を行っている。	天気の良い日にはホーム周辺の散歩を日課にしており、個々の体調によってコースを変えている。ドライブでのお花見や買い物が外食につながることもある。個別レクと称し、少し遠出の買い物に行くことも多々ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	了承を得て職員管理とさせていただいているが、外出時や買い物時等お財布を渡し、好きなものを買ったり等の機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望はあまりないが、必要に応じて対応している。年賀状なども毎年ご本人が一言添えて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が生活感・季節感を感じていただけるよう季節の風物・装飾などを皆さんで作ったり飾ったり、季節の草花を生けたり・育てたり等、工夫している。	程よい広さのリビングには入居者の作品や写真が飾られ、写真には一人ひとりのコメントが書いてあり、その時の様子が思い出せるようにしている。2階には階段の他エレベーターが設置しており、階の行き来も自由に出来る。ホームの一員として飼っている猫が癒しを誘い、暖かな雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物内外の空間をうまく使い、思い思いに過ごしたり、居間等で皆で楽しく過ごせるような配慮や工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が好きなように使っていただき、レイアウト、調度品もご本人の自由にしている。また面会時にご家族とも相談し、協力していただいたり等、心地よく過ごしていただけるよう配慮している。	ベット、整理ダンス、消灯台はホームで用意している。荷物が少なくきれいに整頓され、好きな猫の写真や手芸作品が飾られ落ち着いた居室になっている。入り口ドアには、横長に小さな明かり取りがあり、就寝時の様子がドアの開閉なしでわかるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー・手すりを設置。ご本人の能力に対応し、安全・安心して過ごせるよう配慮している。		

(別紙3(2))

事業所名 さくらホーム

目標達成計画

作成日: 平成 25年 3月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	委員の方の都合もあるが、会議を年6回実施できていない。	年6回の運営推進会議の実施。	①新年度初回の運営推進会議にて、年6回の開催について意見を伺い、実施に向け調整していく。	2ヶ月
2	13	消防署の立会の総合訓練を年1回、及び年5回の自主訓練を実施しているが、夜間を想定しての訓練は十分とは言えない。	夜間を想定しての複数回の避難訓練の実施。	①夜間を想定しての訓練を年間計画に複数回組み入れ、避難の方法・手順を身につけていく。	6ヶ月
3				②実情に即した訓練の実施。 ・通報、職員召集、避難時間等の記録と検証を行い、より実情に即した避難の方法を検討していく。	6ヶ月
4					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。